

年の瀬 各地で食料支援

生活に困っている人たちを励ます、食料支援などの取り組みが各地で取り組まれました。

→各地の取り組み④面

大津市のNPO法人「大津夜まわりの会」(永芳明理事長、弁護士)は26日、生活に困っている人たちを励ます越冬支援のつどいを市内の障所診療所駐車場で開きました。

参加者たるもだやカップめん、マベクなど入った「お楽しみ袋」やコス、紅白まんじゅうなどが手渡され、豚汁が振る舞われました。今年で21回目。

永芳理事長は、コロナ禍で苦しむ国民への支援についで「子育て世帯には1万円相当の給付をする」というのです。が、困っているのは子育て世帯だけではない」と述べました。

初めて参加したという男性



『お楽しみ袋』を受け取る参加者ら=26日、大津市

(60)は「フルタイムのパート、つかりません。生産保護を申として食品会社の工場で15年間働いていましたが、今年8月、工場の移転で退職を余儀なくされました。就職活動をしていますが、仕事がまだ見い」と話しました。

食料支援・生活相談 全国で

12/27
五種

健康診断ありがとうございます

前　本
熊本県医療機関連合会の「このむらくらしを守る相談会」が26日、熊本市の水前寺公園で開かれました。医療関係者や熊本県知事、「反貧困ネットワーク」のメンバーランチ50人が参加し健康

血圧をチェックする人たち=26日、熊本市

給付金家なく届かず

相談や生活相談、物質支援を行いました。82人が血圧検査などを受けたり、くらしの困りごとを相談していました。

健康チェックを受けた男性(2)は「気軽に受けられる健康診断はありがたい。血糖値が気になっていましたが正常値でよかったです」と話しました。生活相談には、「収入が少なくて苦しいので生活保護を利用したい」などの

コロナ感染の影響が続く中、生活困窮者、路上生活者などに向け、法律、労働、健闘、生活相談や食料支援をする「街角なんでも相

相談がありました。光永隆丸会長（歯師）は、長く続く新型コロナウイルス感染症が人々の暮らしに与えた影響は大きくて深刻だとして、「いのちとくらしを守る支援活動に全県で取り組みたい」と述べました。川上和美副会長（看護師）は「相談会や支援活動の内容・課題を各事業所で共有し、次の一支援につなげたい」と話しました。

けたもの。市内の労働組合、弁護士、福岡医療団、日本共産党市議団が相談に応じ、新日本婦人の会、年金者組合などが食料支援をしました。事前宣伝の旨知りうるは、ホームレス支援団体の協力を得るとともに、ネットカラエにも設置しました。食料支援を利用した女性(54)は、高校3年の子2人暮らし。

スには届かない」と政府のコロナ支援への不満を語りました。相談ブースには女性専用も設置。ホームレス状態の女性が「仕事場を紹介してほしい」と相談。女性は、生活保護の申請にためらっていませんでした。

この健福園の渡邊安里事務局長は、「生活保護の扶養費会議になっていた」と指摘。「日々の生活に追われ、抱きしている問題を解決する余裕がない方が多い。取り組みを継続することができ、相談につなげたい」と語りました。

年回連十勝地域班は、ついで8回目の食料支援会議を緊急に開催しました。

氷点下の冷氣が肌を刺す中、サンタやトナカイのコスプレ(格好)で学生たちを迎えたスタッフたちが「クリスマス模様の空に食料品や消耗品を入れて持つて」と呼びかけました。

メールの「ねらいせ」を聞いたという学生や友人から聞いて来たという学生、下校途中

母乳のアルバイトをする薬大生が多く、「生乳が余っている」ユースに心を痛めている」と話しました。部活や先輩との交流や楽器演奏、「パンクールが制限されていくなど」という一年生は、前回の食料支援を利用した時に登録したメール配信を見て参加しました。

ヨロナの影響で収入が減った親から「アルバイトを増やして家計を助けてほしい」と書かれてくる二年生は、「保育が利く食べ物や生理用品はいいのでも困らない」とうれしそうです。

車の荷台」といわれた積まれた「メモ」、薬生生活の学生たちがお仕事など持ち帰りました。

余る生乳に心痛める

けたもの。市内の労働組合、井越市、福留連絡団、日本共産党市議団が相談に応じ、新日本婦人の会、年金者組合などが食料支援を行いました。事前宣伝の意味で、ボーメレス支援団体の協力を得て、女性（54）は、高校3年生の子を持つ人暮らし。

スには届かない」と府の「ロナ支援への不満を語りました。相談ブースには女性専用も設置。ホーリース状態の女性が「仕事を見つけてほしい」と相談。女性は、生年年齢の申請にためらいながらいました。

この健福園の渡邊空事務局長は、生活保護の扶養請求が壁になっていると指摘。「日々の生活に追われ、抱き込んでいる問題を解決する余裕がない方が多い。取り組みを継続する」と、相談につなげていきたい」と語りました。

年同盟十勝地域班会員、帶広畜産大学の巡回で8回目の食料支援を緊急に開催しました。

氷点下の冷氣が肌を刺す中、サンタやトナカイのコスプレ(格好)で学生会を迎えたスタッフたちが「クリスマス禮様の袋に食料品や消耗品を入れて持ってこ」と呼びかけました。

メールの「お知らせ」を聞いたところ「学生や友人から聞いて来た」という學生、下校途中

「生乳が余ってたの」「ヨースに心を痛めていた」と話しました。部類で先輩との交流や収穫感、「ノンクールが制服されていいね」という1年生は、毎回の食料支援を利用した時に登録したメール配信を見て参加しました。

口口ナの影響で収入が減った親から「アルバイトを増やして家計を助けてほしい」と頼まれてくる2年生は、「保育が利く食べ物や生理用品などがありても困らない」といいました。

車の荷台に載つて積まれた「メモ帳」、隣生の学生たちがお土産など持ち帰りました。

中華書局影印
卷之三

女性は「口ナ禍」に拘る
精神疾患で仕事が
ままならないと窮屈を
感ずる現象

●24日 北海道帯広市
農機器を運ぶ学生たち

にたまたま通りがかつた学生たちが無料配布を次々に利用。生活自燃も寄せられました。